出版ダイジェスト
社団法人 出版梓会　出版ダイジェスト社　発行人 鈴木 肇　http://digest-pub.net
毎月3回（1日・11日・21日）発行　購読料1ヵ年＝送料共1,575円（税込）　郵便振替 00190-3-95516
〒101-0052　東京都千代田区神田小川町3-28-13ラフィネお茶の水805　電話03-3292-2323　FAX03-3292-2325

〈本号の内容〉
●2・3面　地域に学び、学びの成果を地域に返す「子ども農業体験活動」の深化
●4・5面　知りたいことにお答えします―全国の食農教育応援団／出前授業、パンフレット無料頒布
●6面　『イネの絵本』が拓いた読書運動の新しいスタイル
●7面　総合的な学習に役立つホームページ

農文協特集

地域と結ぶ食農教育

「総合的な学習」と読書運動の新しい流れ

地域に学び地域に返す「食農教育」で、〈地域と子どもたちの未来〉を拓く

農文協食農教育本部

総合的な学習の時間で育つ「根っこの学力」

この四月、これまで移行措置がとられてきた「総合的な学習の時間」の全面実施がはじまった。学校を地域に開放し、「教える」から「学ぶ」への大転換をはかった画期的な学習の時間である。

完全学校週五日制の実施も相まって、教科の時数が大幅に削減されることから、「総合」の導入が学力低下を引き起こすのではないかと心配する向きもあるが、体験を重視し、子ども自身が自分の頭で考えることを重視する総合的な学習のなかでこそ、教科の学習への意欲も高まるというものではないか。

客観的な知識は、さまざまな体験やその振り返りをとおして育まれる〈想像力〉や〈思考力〉の働きなしには、創造的な力に転化しない。「総合的な学習の時間」がねらいとする「生きる力を育む」とは、実社会に出てからも人間が一生にわたってつづけてゆくであろうあらゆる学びの原基、自ら学び自ら考える「根っこの学力」を、学びの喜びを知るなかで育むことなのである。

「食と農」の学習は「総合」のねらいに最も近い

このようなねらいをもった「総合的な学習の時間」に、地域と結んだ食と農の学習は最高の学びの場を約束してくれるに違いない。なぜなら食は、子どもの興味関心をおこしやすい最も身近な生活行為でありながら、人間のいのちの源であるからだ。食と表裏をなす農をつなぐことによって、自然のなかで自然に働きかけて生活の糧を得るという、有史以来の〈生活の根源〉を学ぶことができるのである。

そこでは、地域の農家が社会人先生として大きな役割をはたすだろう。というのも、農家は地域の自然をよく知った生産者であると同時に、自然の力をたくみに利用し暮らしを立てる生活者でもあるからだ。

日本の農家の暮らしの根底には必ず自給があり、生産と生活が密接不可分に結びついている。地域の自然を熟知し、自然の循環のなかで自然に働きかけて食べ物も衣類も自給し、住居までも大工やむらの人びとと力を合わせて建ててしまう生活者が農家であった。

そのような意味で農業とは、農業生産だけでなく、食べ物の調理・加工も、貯蔵も販売も、あるいは衣食住の全部を含めて農業なのである。そこにはそれぞれ固有の地域自然のなかで長い時間をかけて磨かれ歴史的に蓄積されてきた生産生活の技があり、地域独自の生活文化がある。農家は地域自然と人間の直接の関係でなりわいを営む、根源的な意味での生活者なのである。

「総合的な学習の時間」ではそのような農家に、食と農の技術の手ほどきを受けるとともに、その深い〈自然観〉や、人びとと共同しつつ自然と調和した暮らしを立てる、その〈生活観〉を語ってもらうとよい。子どもたちは、自然の力を生かす農家の知恵と息の長い地道な努力に共感し、人間が生きるとはどういうことかを身をもって知ることができるだろう。

しかも食と農の学習は、奥行きが深く、究めたいテーマがつぎつぎ出てくるのが特徴だ。

それというのも、食と農は、自然と人間との間で行なわれるあらゆる物質代謝の基礎であり、人間の共同性や人倫の大本だからである。人間は自然に内属しつつも自然を超え、共同をなして自然に働きかけてきた。そして地域独自の日常的生活文化を形成するとともに、その生産力の高まりをもって文明を築いてきた。地球上の文化も文明も一切が、いのちの連鎖である自然の力と、食農という人間の営みを基にして築かれているのである。

だからこそ食と農の総合的な学習は、たとえば食物連鎖や文明の発生というように、理科や社会科の学習と関連づけたり、保健体育、技術家庭科、国語、算数、図画工作等々の学習と関連づけ、ダイナミックで奥行きの深い学習が展開できる。食と農は、総合的な学習の時間のねらいに最も近い基本的テーマなのである。

文部科学省から例示された環境、健康・福祉、情報、国際理解などの横断的・総合的課題の学習も、食と農の生活次元でのアプローチのなかで行なわれてこそ、高い学習効果が発揮できるだろう。

教師にとってもおもしろく励みになる「総合」とは

そのような人間の生活の基底をなす食と農の学習は、すでに全国各地でさまざまの取組みが行なわれている。

農文協発行の「総合的な学習の時間」の総合誌『食農教育』の三月号の特集は「『総合』で教師が変わる」である。そこには「総合」の取組みによって発露した子どもたちのほとばしる学習のエネルギーに教師自身が驚かされ、これまでの自分の子ども観や教育観に反省を迫られたことが、新鮮な言葉で書かれている。

岡山県・寄島町立寄島小学校の小川礼子先生（現在、鴨方町立鴨方東小学校）は、「バーベキューをやりたい」という子どもの願いから出発し、その材料の米や梅干し、塩などを全部自分たちでつくる食農の総合的な学習をはじめた。子どもたちは本気になって自発的に動き出し、自分たちで地域の農家と交渉して堆肥の入った土を入手したり、適切な施肥量を農協から聞いてきて田んぼの面積を必死に計算したり、地域の農家を学校に連れてきたりという形で、そのエネルギーを爆発させた。その結果、地域の人たちが気軽に学校に足を運ぶようになったという。子どもたちが学校を地域に開いていったというのである。

小川先生のその取組みは、その前年、四年生のときに行なったゴミのリサイクルの学習が、結局は「やらせ」だったのではないかという反省から生まれている。さまざまな見学や学習、発表などを行ない、牛乳パックの回収を日常的に行なうところまでもっていったのだが、五年生になっても回収を続けようという子どもは一人も出なかったというのだ。

おもしろいことに、前年のゴミの学習のときは、準備や計画をすべて教師がやらなければならず、しんどい思いをしたのだが、今回は子どもたちが自発的にどしどし探究を行ない、地域の農家が助けてくれるものだから、非常に楽にやれたという。

「総合」で教師に多大な負担がかかると言われるが、「自分が」教えるという発想から脱却すれば、教師にとっても、地域と結んだ食と農の学習ほど自由でおもしろく、教師自身の励みになる学習はないのではなかろうか。

食と農で、学校と地域が一体となって地域をつくる

このような食と農の総合的な学習は、一つの大きな潮流になりつつある。文部科学省の国立教育政策研究所のホームページの分類でも「食農教育」というジャンルが設定されて、各地の食と農の学習の実践事例がたくさん載っている（http://www.nier.go.jp/saito/kuro/bunrui.html）。農水省や農政局、食糧事務所、統計情報事務所や、系統農協も、食農教育を全面支援している。食と農の総合的な学習は、今後一層大きな流れになっていくだろう。

教育は人びとの生の充実や永続する生活への希求とともにある。農家は学校に「協力」するのではない。学校は地域の人びとの力を「借りる」のではない。地域の大人も教師も、そして子どもも一緒に、地域と、子どもたちの未来をつくるという観点に立つことが重要なのだ。そのとき子どもたちばかりでなく、地域の大人たちが元気になるだろう。教育を地域にとり戻すことによって、高度経済成長時代には無視された自然調和的な生産生活の技術に光があてられ、家・むらの共同性が回復されるからである。

農文協では、このような食と農の総合的な学習の展開のために、教師と農家がつどって、さまざまな食農の体験学習を行なえる年間五回の「食農教育講座」を準備した。古代米なら古代米に深い造詣をもつ農家と、古代米で授業実践を行なった教師が組んで報告し、田植え体験や食の体験を行なう総合的講座である。ふるってご参加いただきたい（詳しくは3面参照）。

木の家に住むことを勉強する本
「木の家」プロジェクト編
風土に合った地元の木で心地よく長持ちする家を造るための実用ガイド●一九〇〇円

ムリなく住めるエコ住宅
OMソーラー協会編
光・風・水・緑・土…自然の力を活かした環境調和・省エネ・資源循環型住宅の造り方・住まい方●一八〇〇円

近くの山の木で家をつくる運動宣言
緑の列島ネットワーク発行
家造りから見直す日本。浅井慎平、林望、永六輔氏ら賛同●千円

季刊 住む。創刊
身の丈に合った普段着のような自然派住宅を造る・住む情報誌
【創刊号】特集・正直な家　●1200円

農文協
東京都港区赤坂7-6-1（価格税込）
☎03（3585）1141/FAX03（3589）1387
http://www.ruralnet.or.jp/

返す「子ども農業体験活動」の深化

「子ども農業体験活動コンクール2001」表彰事例から

この四月から全国の小中学校で「総合的な学習の時間」が導入され、「完全学校週五日制」が実施されるなかで、「農業体験活動」の持つ教育的効果に注目が集まっている。「生きる力」を養う基本としての農業体験活動を学校で、地域でいかにすすめるか。「子ども農業体験活動コンクール2001」（主催：子ども農業体験学習中央推進協議会・JA全国中央会、事務局：農文協）は、そのすぐれた事例を顕彰し、活動の輪をひろげるねらいで平成十三年度に実施されたものだ。短期間の募集活動にもかかわらず、全国から一六三もの応募があり、三月一五日東京大手町JAホールで表彰式が行なわれた。

◆文部科学大臣奨励賞
桃子野（ももこの）朝市を開こう
—地域のもの・人・ことから学ぶ—

兵庫県加西市立富合小学校

「今日の野菜は何種類ですか？」地元の朝市で農家にインタビュー

応募総数一六三事例のうち、学校関係からの応募が九九事例、JAをはじめとする地域で農業体験を支援している側からの応募が六四事例あった。

そのなかで、文部科学大臣奨励賞を受賞したのが兵庫県加西市立富合（とみあい）小学校である。兵庫県中部、農村地帯にある同校の農業体験活動は、「総合的な学習」のテーマとして「地域のもの・人・こと」に着目したことが出発点になっている。今回表彰対象になったのは五年生の取り組みだが、この学年では「地域の経済活動にふれる」ことによって課題を見つける問題意識を養うことに基本がおかれている。

なぜ「朝市」は人気があるの？

地域の経済活動といえば、身近にあるのが農業生産。とりわけ「朝市」の活況ぶりは日頃から子どもたちの注目の的であり、格好の学習素材だった（ちなみに、桃子野とは同校周辺の昔からの呼び方）。

平成十二年の六月、校区内にあるJAの朝市を見学。ここは、毎木曜と日曜に地域の農家が野菜を販売。朝早くから多くの人が買いにくる。子どもたちは、各自で店を見学してインタビューを実施。どの店でも温かく答えてもらい、高齢者を中心とした農家の方の思いにふれることができた。

朝市見学のあとに、感想を出し合う。

「なぜ朝市は活気があって面白いのか」「なぜ安いのか、美味しいのか」。朝市の秘密をさぐるための調査がグループ別に続けられた。

他の大型店で調査もして、子どもたちがつかんだことは、農産物の栽培や商品販売の仕組みだけでなく、朝市には売り手と買い手の温かいコミュニケーションが成立しており、地域のお年寄りの知恵と技も学べる場であるということだ。そして、全体の発表会の意見交換のなかで「自分たちも朝市に参加したい」という強い思いが芽生えた。

マーケティング活動開始

「先輩に負けずに朝市に出そう」夏野菜の苗の定植作業

子どもたちが朝市に参加したいという意欲を持ったとき、生産と流通をセットにした農業体験活動が可能になった。富合小学校で学校農園として借りている約八アールの田んぼの半分で、野菜づくりに取り組むことになる。校区にある農業改良普及センターに指導してもらい、六種類の冬野菜（白菜・大根・かぶ・キャベツ・ブロッコリー・レタス）にチャレンジ。夏休みの登校日に行なった種まきから、定植、水やり、草とり、追肥、害虫退治などの作業に取り組みながら、念願の朝市参加の準備をしていった。事前の価格調査、校区内一二〇〇戸へのチラシ配布、看板・ポスターの制作、はては野菜料理のレシピつくりまで、念のいった準備活動が子どもたち主導で進行した。プロ農家も顔負けの見事なマーケティング活動である。

「いらっしゃいませー」平成十二年十二月十七日(日)午前六時、まだ夜も開けやらぬ冬の朝、朝市で大声の呼び込み開始。もう少し売るのに苦労させたほうが…と思うほど瞬く間の完売。長い時間と苦労をかけて育てた野菜だけに、どの子も充実した達成感を味わった。

そして子どもたちはその経験を次の五年生に伝えようと、ビデオレターとパンフレットをつくった。成功体験が子どもたちに大きな自信を持たせてくれたのである。

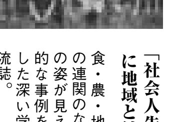
農文協　定期購読受付中

農文協の教育雑誌

食農教育

隔月刊、A5判・160頁・定価800円（〒120円）年間購読料4800円（〒サービス）

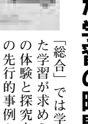
「社会人先生」との連携を鍵に地域と結ぶ実践を紹介



食・農・地域というキーワードの連関のなかに「総合的な学習」の姿が見えてきた—全国の先行的な事例をとおして地域と連携した深い学習を探る実践情報交流誌。

5月号　特集・パソコンで深める体験学習
3月号　特集・「総合」で教師が変わる
1月号　特集・校区探検の技術
11月号　特集・深まる広がる　図書・情報の生かし方

臨時増刊号
地域を生かす「総合的な学習の時間」事例集



「総合」では学校・地域の個性に応じた学習が求められる。食・農・環境の体験と探究を軸に、全国の数多くの先行的事例から厳選してまとめたモデルプラン集。●800円（〒120円）

技術教室

★「ものづくり」から社会や生活を見詰め、生きる力を育てる教育を追究。唯一の技術・家庭科専門誌。編集・産業教育研究連盟／月刊、A5判、720円、年間8640円

【4月号】特集・時短に負けないものづくり教材

保健室

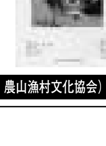
★保健室だから見える、教室では見せない子どもたちの本当の姿。養護教諭からの発信。編集・全国養護教諭サークル協議会／隔月刊、A5判、700円、年間4800円

【99号・4月号】特集・子どもの生活と電子メディア

初等理科教育

★実践例豊富な小学理科の総合専門誌。子どもの理科離れに危機感を持つ仲間たちの情報交流。編集・日本初等理科教育研究会／月刊、B5判、700円、年間8400円

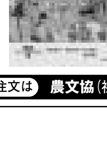
【4月号】特集・「豊かな心」にどこまで迫れるか



現代農業

★農家は命を育む自然の先生。無農薬栽培の技術から手作り農産加工、自然素材を活かす工芸、遊びまで、食農学習のヒントがいっぱい。／月刊、A5判、800円、年間9600円

【2002年特別号】加工の技術　売り方の知恵



ご注文は　農文協（社団法人 農山漁村文化協会）〒107-8668　東京都港区赤坂7-6-1　TEL.03-3585-1141　FAX.03-3589-1387　振替00120-3-144478　URL http://www.ruralnet.or.jp/　価格は税込

地域に学び、学びの成果を地域に

「100円でーす。もうすぐ売り切れですよー。」朝市に出店した富合小学校の売店で。

後輩たちは夏野菜を

平成十三年度の新五年生も、先輩のビデオを見ては朝市に取り組まないわけにはいかない。今度は夏野菜をつくってみようということになった（トマト、ナス、スイートコーン、スイカ、カボチャ、そして万願寺トウガラシの六種類）。四年生で学んだ環境保護のために、「牛乳スプレー」で害虫のアブラムシを退治したりして、夏野菜の収穫も予想以上で、二年目の朝市体験も大盛況であった。

「桃子野サミット」で成果発表

子どもたちの取り組みで特筆すべきは、活動の成果を地域に返していることである。

地元で特産品として栽培を奨励していた万願寺トウガラシ（甘トウガラシ）は、京野菜として商標登録されていて、そのままのネーミングでは販売できないものだった。それを聞いた子どもたちは、ならば別の名前を考えようと新たな課題研究のテーマにし、地域の伝承からとった「根日女（ねひめ）トウガラシ」という名前を提案した。

こんな地域へのお返しの場は、子どもたちが主催し、農家や農業改良普及員、農業大学校の先生などのゲストを呼んで開いた「桃子野サミット」という名の研究発表会である。

子どもたちは「加西市の農業はどうなるか」の大テーマのもとに「経費探偵団」「最新技術研究所」「後継ぎ探検隊」「消費者研究所」などグループごとに課題を設定し、成果を発表した。

今の加西市の農業は後継者不足などいろいろな課題をかかえているが、発展させる方法はあること、農業はなくしてはならない大事な経済活動であることをゲストにもアピールできた。

子どもに何が育ったか

五年生の指導を担当した吉田香代子先生の子どもたちへの評価は、

「地域の一員としての自覚が芽生えてきた」「地域の様々な人々と関わるなかで、コミュニケーション力が育ち始めている」。これは、農業体験活動のすばらしい成果であろう。

こうした農業体験学習活動の成果は、コンクールの応募事例に数多く見られ、審査委員が表彰対象の選抜に難渋することになった。

引き続き開催される平成十四年度のコンクールにも、学校とその応援団の楽しい実践が数多く応募されることを期待したい。

（＊平成十四年度のコンクールの問い合わせ先は次の通り。「子ども農業体験活動コンクール・フォーラム」事務局（社）農山漁村文化協会内　電話〇三・三五八五・一一四四　FAX　〇三・三五八五・六四六六）

★「子ども農業体験活動コンクール2001」の報告が「食農教育」（農文協刊）の5月号から連載されます。

◇パンフレット◇
農業体験で子どもたちに生きる力を
—子ども農業・農村体験のすすめ—
を差し上げます。

子ども農業体験学習中央推進協議会（事務局・JA全中地域振興部地域振興課）が発行したパンフレット（A4判・16頁）をご希望の方に差し上げます（送料のみご負担ください）。

【申込方法】希望部数と使用目的、住所・氏名・電話番号・職業を書いて、送料を切手でお送りください。

【送料】一部二〇〇円、二〜五部二三五円、一〇部三一〇円、一五部五一〇円、二〇部六七〇円、三〇部八一〇円、五〇部一一〇〇円、五〇部を超える場合は送料確認後に発送します。

【申込先】〒一〇〇−〇〇〇四　東京都千代田区大手町一−八−三（JAビル）JA全中地域振興課　農業体験パンフ係（電話　〇三−三二四五−七九七三）

【主な内容】現地レポート①「地域で育つ・農業体験で変わる（千葉県我孫子市立我孫子第二小学校の実践）」②交流で育つ・農村体験で変わる（長野県飯田市の「体験教育旅行」受け入れの取り組み）／子どもの体験学習活動を支援する事業紹介／子ども農業体験学習情報サイトの案内他

クラス全員に持たせて調べ学習。農と食のデータ満載「ジュニア ファクトブック」

JA全中では毎年、最新の農業・食料・JAに関するデータを資料や図表で解説した一般向けの「ファクトブック」を出版してきたが、今回、こども向けに「ジュニア ファクトブック—食料・農業・JA」を企画発行した。今年から始まる「総合的な学習の時間」に合わせ、教育現場で「たべものや農業」への関心がたかまっていることもあり、多く寄せられる質問を中心に編集した。この3月末に全国の小学校25、000校へ寄贈。

食生活や日本の農業の現状、米・畑作・畜産などの生産や流通の概況、世界の農業と農産物貿易、農業・農村・JAの役割など、図表やイラスト、データを使って、Q&A形式でわかりやすく解説。B5判、112頁、定価500円（税込・送料別）購入・申込みは、東京都千代田区大手町JAビル「農業書センター」電話03（3245）7647FAX03（3270）2800。送料1部250円、2部以上400円、40部以上は無料。

受講者募集中！先着各30名様
教師のための総合的学習講座
「食農教育講座」開講

○主催　（財）長野県農村文化協会、（社）農山漁村文化協会／○後援（予定）文科省・農水省・長野県・長野県教育委員会・長野県農業協同組合中央会他／○場所：長野県小谷村「栂池センター」／○1泊2日・全5回／○受講料（宿泊代・資料代など込み）各1万3000円
○第1回　5月25日（土）〜26日（日）　開講式／記念講演「総合的な学習の時間のねらいと農村空間の教育力」（文科省視学官・嶋野道弘）／古代米のうんちく学講座（古代米研究家・唐木田清雄）、紫米の栽培体験で稲作の奥深さを学ぶ（長野県佐久長聖中・小林　浩）、古代米の食べ方、古代米の田植え、転作田にダイズを播く（中村恵美子、南沢芳昭）。

【以降の講座】○第2回・6月　山の暮らし体験と、学有林での授業実践報告　○第3回・8月　蕎麦のたね播き・ハーブ体験と残飯堆肥の授業実践　○第4回・10月　郷土食「おやき」体験、歴史体験（塩の道）と、「おやき」を使った授業実践報告　○第5回・10月　郷土食「蕎麦・味噌」体験と、特産づくりに励む授業実践報告／閉講式

【申込み先・お問い合わせ先】（社）農文協文化部　電話03（3585）1149、FAX03（3585）6466

■なお、「自然体験学習講座」も5月初めから始まりますので、資料をご請求下さい。

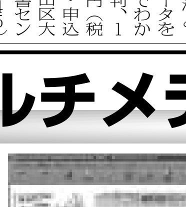
農文協
食と農のマルチメディア・ソフト教材

VIDEO
農業体験で「総合的な学習の時間」をつくる

全3巻　各約45分
各巻10500円
揃価31500円

学校独自の「総合的な学習の時間」をどうつくっていくか—各地の生き生きとした事例をとおして、地域と結んだ農業体験の魅力と、その構想や具体的な進め方を提案します。

①学校農園で いきいき農業体験
②生命を学ぶ わくわく飼育体験
③学校田で おもしろ稲作体験



現代農業 CD−ROM 2002

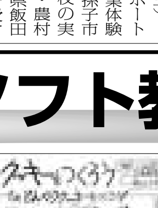
学校園活動、食品加工、四季の草花、輸入食品、農家の暮らし…現代社会の農と食に関する情報が満載。「総合的な学習の時間」にこそ活用したいデータベース。（月刊『現代農業』17年分204冊分の膨大なデータを収録）

●100000円

★記事全文を高速検索可能。マウスクリックだけで目的の記事にたどりつけるテーマ別ガイド機能が充実。

総合的な学習 CD−ROM2002

【収録情報】雑誌「食農教育」19号分、「自然教育活動」43号分、「現代農業」連載・親子で発見・驚き農業実験など、**農業高校用教科書11教科**、**単行本**「学校園の栽培便利帳」「学校園の観察実験便利帳」、「おもしろふしぎ食べもの加工」など、文部省依嘱研究、食生活推進コンクール、子ども農業体験コンクールの応募・収集**事例649例**、など



教科書のない「総合的な学習の時間」をどう組み立てていくか—事例1900と食・農・自然・環境学習の基礎情報を収録。

●26250円

クリックしていくだけで、誰でも的確な情報へいきつける「ガイド機能」（学習素材別、学習素材別、フィールド別など）付き

ご注文は　農文協（社団法人 農山漁村文化協会）〒107-8668　東京都港区赤坂7-6-1　TEL.03-3585-1141　FAX.03-3589-1387　振替00120-3-144478　URL http://www.ruralnet.or.jp/　価格は税込

知りたいことにお答えします——全国の食農教育応援団

質問には全て答える「食と農」の出前授業
「福岡統計情報事務所」の実践

子どもたちが学校の内外で体験的、問題解決的な学習に取り組むには、地域社会が連携して特色ある学習活動を支援することが求められている。「福岡統計情報事務所」（農林水産省九州農政局）では、平成一二年度からそうした要請に応えて、豊富な農林水産データを活用して「食と農」の出前授業を実施している。

その出前授業は小学校、中学校にとどまらず大学、地域のイベント会場にまで及び、まさに地域の「農林水産情報センター」としての活動に期待が集まっている。二年間どのような資料活用をしてきたのだろうか、またその実践のなかでどんな課題が明らかになったのだろうか。

質問には全て応える「ワンストップサービス」

地域住民に限らず学校教職員でも、行政サービスを活用しようとした場合に、窓口そのものがどこにあるのか分からないことが多い。「統計情報事務所」はまずこうした地域住民との垣根を低くすることから取り組んでいる。

それが「農林水産情報センター」という機能である。そもそも「統計情報事務所」とは部外者にはどのような統計情報を扱っているのかということが分からない。「統計情報事務所」は農林水産省の各地方農政局に所属する部署であるが、その名称はあくまで内向きの名称であって部外者には分かりづらい。そこで部外に開かれた外向きの機能・名称が「農林水産情報センター」なのである。

そこでモットーとされている合い言葉が、質問には全て答える「ワンストップサービス」である。そこではとかく「たらい回し」と評された行政の縄張り・縦割り意識はまったくない。地域住民や児童生徒の、農林水産業に対する関心と期待に応えようという姿勢が感じられる。「ワンストップサービス」とは文字通り、質問を受けたその窓口がたとえ難しい質問であっても最後まで責任を持って回答するという姿勢なのである。実際に平成一三年度の一年間だけでも二〇〇件を超える質問が寄せられて、それに全て答えきったというからその意気込みはかけ声だけではないことがよく分かる。

地域農業にこだわった出前授業

そうした地域に開かれた行政サービスの最先端が、「食と農」の出前授業である。小中学校からの要請に応えて出張授業をすることが基本的なスタイルであるが、そこで提供する農林水産情報は徹底的に地域農業にこだわっていることが特徴である。「子どもたちが地元の地域農業について、あまりに知らなさすぎることがショックでした。」企画情報課係長の櫻木利春さんは、地域にこだわった情報提供をしようとしたきっかけをこう語る。

行政からの情報提供ということで云えば、当然日本全体の食料自給率の向上という目標があって大上段に構えがちではあるが、それだけでは子どもたちの実感に結び付かない。自分が住んでいる町や村の農業生産物を知らないで、農業の大切さ・食の大切さを語ってもお説教にしかならない。例えば福岡県では子どもの好きなイチゴやキウイの生産量が全国でも上位であることや、ナスやレタスの生産量も同じく上位にあることをパネルやグラフで紹介すると、それだけで子どもたちの目の輝きが変わってくるという。

その上で、日本人の食べ残しに相当する量だけでも、世界の食料不足解消に大きな影響があることを示すと、子どもたちの理解力・吸収力に格段の違いが出てくるのである。地域の農業情報と世界の農業情報を結びつけて、「食と農」の大切さを伝えることが出前授業の神髄であるようだ。

格好の教材「育ててあそぼう」シリーズ

統計情報事務所に寄せられる子どもたちからの質問は、いわゆる統計データにはとどまらない。米、野菜、果物などの栽培方法・病虫害に対する対策はもとより、食べ方・加工方法などの食文化の側面にも及ぶ。現代だけではなく過去の食や農のあり方、はては洋の東西による違いにまで、子どもたちの好奇心は時や地域を超えて広がる。

そうした好奇心と探求心に期待されたとき、「ワンストップサービス」の合い言葉が生きてくる。部内で調べれば分かることはもちろんのこと、分からない問題は農林水産省の専門部署に問い合わせる。それぞれの専門部署と統計情報事務所・農林水産情報センターのネットワークを活用するのである。

「しかし日常的には農文協の『そだててあそぼう』シリーズは重宝してます。」栽培から調理までを、子どもの理解度に合わせて分かりやすく、しかも必要充分な内容が盛り込まれているので、質問に答えるための参考にするだけでなく出前授業のネタにも使えるのだという。実際に、シリーズ全巻が統計情報事務所で活用されている。学校の「教材」として活用されることを願っているものであるが、意外なところで「教材の教材」にもなっているようである。

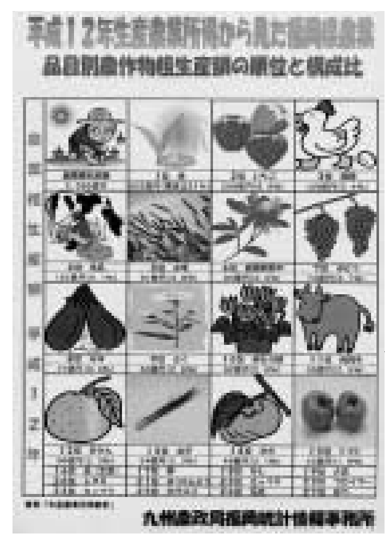
行政・農業団体の幅広いネットワークを

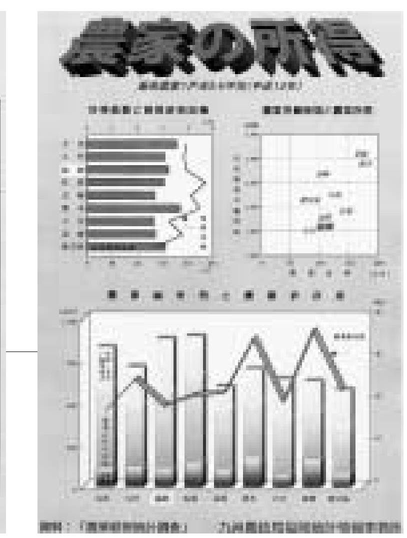
新年度からの体験的・問題解決的な学習では、特に農業体験活動の教育的効果に期待が寄せられている。食料・農業・農村・環境・生命・文化など多様な側面を持っており、「生きる」ための基本的な学習とも云えるからだ。そのためJAをはじめとする農業団体や、農業・環境をテーマとする地域任意団体も積極的な支援活動に取り組んでいる。農林水産省などの行政機関は、統計情報事務所などが上記のような出前授業、食糧事務所などが体験活動の実施というようにそれぞれ得意分野で支援活動を行っている。

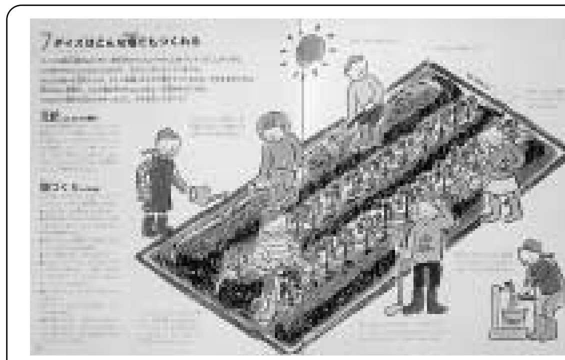
「行政と地域農業団体で情報を交換しながら、体験活動支援・学習活動支援等の窓口の整理を至急しなければならないと思っています。」企画情報課長の椎葉和男さんは、出前学習の手応えを感じつつも、早くも次の段階であるネットワークづくりを視野に入れている。実際に学校教職員が「農業体験活動をしたい」「農業学習をしたい」と考えても実はどこに相談したらよいかがよく知られていない。同じ農業行政機関でも名称を聞いただけでは、第三者には国の機関と自治体の機関の区別もつかないことが多い。「学校が総合的学習に取り組むように、行政や農業団体も総合的機能を身につけなければならない時代なのです。」椎葉課長の言葉には、子どもと地域社会双方の学びあいにかける期待がにじみ出ている。

九州農政局では地域社会・農業団体・行政が連携して子ども農業体験学習活動を支援するために、「食農教育部会」がネットワークづくりに取り組んでいる。統計情報事務所はその最先端で地域との窓口役として期待されているのである。

小学校へ出向いての福岡統計情報事務所の出前授業風景
子どもたちの興味をひくさまざまな農と食の情報を、ひとめでわかるビジュアルなパネル（下）にして持参。






各地の学校農園、学童農園でテキスト採用続出！
シリーズ絵本「そだててあそぼう」
作目別の栽培・飼育法、食べ方、実験・観察法、加工法から品種、来歴、文化誌まで、濃い中身を専門研究者が絵本仕立てのわかりやすさで解説。イネ、トマト、サツマイモ、ケナフ、ラッカセイ、ダイズ、ニワトリ、ヤギ、カイコ、アサガオ、ブドウなど40点と、シリーズ内シリーズ『土の絵本』全５点。各1890円、農文協刊

長野県食農教育ネットワークが配布
いのちを育てる　地域と交わる
食農教育取り組みガイド2002年版

作物や家畜など生き物を育てることでいのちの尊さを知ること、食を通してくらしの知恵を学ぶことなど、食と農の体験は、子どもたちの体とこころの成長に大きなプラスになるはず。長野県では地元の行政機関や農業関係団体が一致団結して、学校教育現場の先生方のサポートを始めた。その第一弾が昨年一二月に発行した標題のB五判、六四頁の解説本だ。

学校農園開設の考え方を踏まえて、農園実践編として水田体験を四月から一〇月までの稲の生長と作業を絵解きで紹介。畑作業では、ダイズ、トマト、トウモロコシ、サツマイモ、ソバを取り上げている。さらには先駆的に取り組んでいる阿智第二小学校など三小学校の紹介している。

食農教育ネットワークには、農業改良普及センター、長野食糧事務所、関東農政局長野統計事務所・長野西部農地保全事業所、長野県食と農を学び育む県民運動、長野県農業技術者連絡協議会、JA長野県青年部協議会、JA長野県女性協議会などが参加。ガイドの発行と並行してインターネットでの情報提供（http://www.janis.or.jp/shokunou/net/index.html）と交流も始めている。ガイド本、HPとも、現場での食農教育の取り組みの「お手伝い」が目的であり、あくまで現場の主体的な取り組みの支援を基本とすることに留意して企画・運営をすすめているのが特徴だ。問い合わせは長野県食農教育ネットワーク事務局（JA長野中央会営農農政部農政対策課TEL〇二六―二三六―二〇三〇）

農政局が小学生用副読本を作成
「きらっと輝く　東海の『食』と『農』」

小中学校における「食農教育」の取り組みを支援する東海農政局では、平成一二年八月に東海地域にある農林水産省の出先機関＝名古屋食糧事務所、中部森林管理局及び消費技術センター名古屋センターと連携して、「MAFFとうかい食農応援団」を結成した。「食」や「農」に関する各種情報の提供や相談に対応するだけでなく、要望に応じて職員が学校に出向き、食料や農業の講義を行う「出前教室」等も開いている。

今回、平成一三年度に実施した学校給食の実態調査を踏まえ、給食の献立を生きた教材として、「食べ物」が作られ食卓に並ぶまでの過程等について子どもたちに対してきちんと説明を行い、地域農業、その役割、地域の食文化等について理解を深めることが一層重要だと、そのための学校副読本の制作が企画された。

完成した副教材「きらっと輝く東海の『食』と『農』」（オールカラー、48頁）は三つのコンセプトで東海三県の食と農を紹介している。第一に伝統食のよさを再認識してもらい、第二にその伝統食を支える各県のマイナークロップ（少なくなった伝統野菜）への理解を深め、第三に次の世代への架け橋となる女性グループなど学校に出前授業できる人、あるいは体験学習できる場所を紹介して実践につなげようというもの。

本書は、管内の全小学校長（一八四三校）、および小学校の五年生全クラスへ一冊配布するほか、学校栄養職員八三二人に配布される。また、平成一四年度から実施される総合的な学習の時間のなかで活用したい旨申し出があった学校全てに対し五年生全員に配布し、冊子をつかって具体的に実践をしてもらう予定だという。連絡先は、東海農政局統計情報部企画情報課、直通電話（052）223―4642。ホームページ（http://www.tokai.maff.go.jp/toukei/hon/kira.htm）でも紹介されている。

農文協

イネが教えてくれること

食べものといのちの大切さ、そして日本人の心

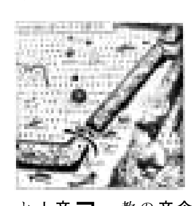
イネの絵本

そだててあそぼう第6巻　山本隆一編、本くに子絵　日本の風土、すばらしい水田が育む日本人の元気のもと。手作り木枠田んぼで育てて収穫、おいしく料理。稲作の民俗や世界の米も紹介。●1890円

シリーズ「そだててあそぼう」
①トマト②ナス③サツマイモ④ジャガイモ⑤トウモロコシ⑥イネ⑦ムギ⑧ソバ⑨ダイズ⑩ワタ⑪キュウリ⑫カボチャ⑬メロン⑭イチゴ⑮ラッカセイ⑯ヒマワリ⑰ケナフ⑱アイ⑲カイコ⑳ニワトリ㉑ダイコン㉒ヘチマ㉓コンニャク㉔サトウキビ㉕ヤギ㉖キク㉗スイカ㉘ヒツジ㉙ヒョウタン㉚カキ㉛ブルーベリー㉜キャベツ㉝ナタネ㉞アサガオ㉟シイタケ㊶ニンジン㊷ミツバチ㊸ベニバナ㊹チャ㊺ブドウ【土の絵本】㊱土とあそぼう㊲土のなかの生きものたち㊳作物をそだてる土㊴土がつくる風景㊵環境をまもる土
●小学校中学年から。各1890円

プレゼント

そだててあそぼう〈ゆめのたね〉
ラッカセイがどう育つか、知ってますか？
ご希望の方は、農文協〈ゆめのたね〉係までお申込みください。
住所・学校名（個人名）・電話番号・希望個数をご記入のうえ、ハガキでお申込みください。
協力：落花生主産県連絡協議会



「田んぼの学校」入学編
企画・農村環境整備センター、文・宇根豊、絵・貝原浩　里山の自然、イネの生長…田を食農教育の場にする実践の手引き。●1800円
「田んぼの学校」あそび編　文・湊秋作、絵・トミタイチロー　五感を揺さぶる四季の遊びとイネの観察メニュー154。●1800円

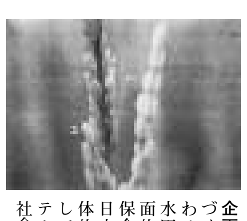
ご飯 みそ汁 どんぶり飯
「食べごと大発見」第1巻　文・絵・かこさとし　長い歴史と生活・文化に支えられたおコメ。おいしいご飯の秘密から味噌・納豆づくり、おもち、お酒までうんまい知恵がタップリ。●2310円
★「食べごと大発見」姉妹書　②めん類③鍋物・煮物④揚げ物⑤四季の晴れ食⑦肉⑧果物・お菓子⑨野菜⑩海の幸　●各2310円

写真でわかる
ぼくらのイネつくり
農文協編、赤松富仁写真　バケツや手作りミニ田んぼの四季の作業と、料理、ワラ加工までオールカラー写真で解説。【全5巻】●各1890円
①プランターで苗つくり
②田植えと育ち
③稔りと穫り入れ
④料理とワラ加工
⑤学校田んぼのおもしろ授業

生きものたちの楽園
田畑の生物
「農業と人間」第5巻　守山弘著　水田、ため池、雑木林、里山…農村は豊かな生命空間だ。自然の中で人と共に進化し、農業が育んできた生きものたちの世界とその生かし方を描く。●2100円

ビジュアル　サイエンス
イネという作物
「土と人間」第2巻　太田保夫著、河崎千加子絵　胚からイネが生長していくしくみのすばらしさ。イネの姿を変えた稲作技術の進歩と、新しい米づくりを学ぶ。●2100円

水田の秘密　環境と生命の物語
企画・JAグループ環境推進協議会　高温多湿で山が多い日本の自然条件を巧みに活かした水田は、長年にわたり連作ができるすぐれた農業装置。お米を生み出すだけでなく、地域の文化と景観を育て、国土の環境も守ってきた水田のすばらしい役割と秘密に迫る。●20分、9975円



日本の稲作（新版）
企画・JA全中　日本の米づくりの四季と稲作にまつわる祭りや行事に加えて、水田や米づくりが果たす多面的な役割（国土と環境の保全など）についても解説。日本の稲作全般について具体的でわかりやすい映像としてまとめており、稲作をテーマにした総合的学習や社会科での産業学習に最適。●18分、8400円

ご注文は　㈳農山漁村文化協会〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1　TEL.03-3585-1141　FAX..03-3589-1387　振替00120-3-144478　〈支部〉札幌市 TEL.011-271-1471　仙台市 TEL.022-262-5804　小山市 TEL.0285-27-3047　長野市 TEL.026-235-3427　名古屋市 TEL.052-571-3408　岡山市 TEL.086-231-2693　福岡市 TEL.092-282-8550　URL http://www.ruralnet.or.jp/　価格は税込

読書運動の新しいスタイル
読んで『やってみよう』

第四七回青少年読書感想文全国コンクール入選
『イネの絵本』感想文が示すもの

読書運動の新しい風

子どもの読書離れが話題になるようになって久しいが、最近、朝の一〇分間読書運動のなかから、新しい子どもの読書傾向が現われてきた。

石川県輪島市立三井小学校は、全校生徒が五八人の小さな学校だ。三井小学校では、三年前から、国語の表現力を高めようと、朝の一〇間読書運動に取り組んでいる。この運動のなかで、子どもたちは読書の習慣が身につき、ほとんどの子が本好きになってきた。そして、平成十四年の第四七回青少年読書感想文全国コンクールのノンフィクションの部で、四年生の浅田蓮氏君が、「そだててあそぼう」シリーズ『イネの絵本』（農文協刊）を読んで、全国学校図書館協議会賞を受賞したのである。

アズキのはざかけを手伝う蓮氏君。ハシゴに登っているのがおばあさん。

蓮氏君の家では、おじいさんがイネつくりをしており、蓮氏君も家族と一緒に、田植え・稲刈り・はざかけの仕事を手伝っている。もみ袋を運ぶのは重くて辛いけど、はざかけは面白いから好きだという蓮氏君である。

体験を深める『イネの絵本』

そんな蓮氏君が、『イネの絵本』を読んで分かったことが二つある。一つは、米にはいろいろな種類があること。

「米作りのことはよく知っているけど、この本で初めて分かったこともあったのでよかったと思います。例えば、米にはいろいろな種類がある事が分かりました。（中略）僕の家でも、コシヒカリの他に、ひとめぼれ、能登光、かぐらもちなどけっこう作っているけどまだまだあるんだなと思いました。」

二つめは、イネの干し方にもいろいろあること。

「日本海側と太平洋側では干し方がちがいます。僕達の方では、丸木を組んではさを作り、高いものでは九だんもあります。太平洋側では、糸で大人位の木につるし、くるくるイネをまわして干すそうです。丸木をマネなくていいから、らくかなぁと思いました。」

蓮氏君は、イネつくりの体験をもとにして、それをさらに深める読み方をしているのが分かる。

実践への誘い＝自分の物語づくり

蓮氏君の感想文でいちばん特徴的なのは、本の内容の感想を書くだけでなく、読書を契機にして、日常の暮らしの実践に踏み込んでいる点だ。

「この本を家に持っていって、ばあちゃんに内ようを全部いって聞かせ、読みたい所はどこかとたずねてみました。ばあちゃんは、米の料理方法の所を読みたいと言いました。そしてばあちゃんは、さっそく甘酒を作りました。読んですぐだったのでびっくりしました。僕もまたもう一度本を見て玄米茶の作り方をみつけました。

授賞式での蓮氏君。『イネの絵本』（農文協刊、1890円）のイラストを描いた本くに子さんといっしょに。

僕は、玄米茶が好きなので作ってみる事にしました。じっくり本を読んで、次のばんに作ってみました。」

こうして蓮氏君は、三回目によるやく玄米茶づくりに成功し、おじいさん、おばあさんに喜んでもらった。

これまでの読書感想文は、童話や小説など人の書いた物語を読んで、感想を書くというスタイルが多かったが、蓮氏君は、『イネの絵本』に盛りこまれていた物語を読み取り、それを自分と家族の日常生活を豊かにする実践＝自分の物語づくりへと発展させたのである。

「やってみよう」が重要な時代

蓮氏君が読んだ「そだててあそぼう」シリーズは、子どもたちを実践に誘う点に特色がある。文部科学省教科調査官の宮川八岐氏は、その点を以下のように高く評価している。

「現在、学校ではイネづくりやサツマイモ栽培などを学校行事として行っている。重要なことは、その体験が動機付けとなって児童自身が、学級でも、児童会でも、家庭でも、『やってみよう』と取り組むようになることである。（中略）ーチャルから現実生活へ」という新しい息吹を送り込むのである。

これが学級文庫にあれば、たちまち休み時間や給食の時間、読書の時間などの人気者になる。学校図書館にあれば『総合的な学習の時間』にも大いに活用されよう。（中略）『そだててあそぼう』は、子どもたちをバーチャルな世界から現実生活に引き戻すであろう。本書は子どもたちに栽培活動への関心を高め、子どもたちを体験へといざなうだけにとどまらず、その取り組みの過程で『食・農』への問題意識や感性を高めるのである。」（日本教育新聞平成十二年三月三日より）

このように「そだててあそぼう」シリーズは、新しい読書運動のスタイルを創りだすだけでなく、学習活動のあらゆる場面で、「バ

元気な森を教室に出前します！
森の訪問授業に役立つビデオ完成
『元気な森を育てるために』

日本の森林の4割を占める人工林は、木を伐るなど人の手が入ってこそ良質な木が育ち、環境保全の役割も果たしてくれる。ところが、この人工林の木を伐ることが、熱帯林の森林破壊と同じレベルで環境破壊だと思っている子どもたちや先生が多い。しかも、国土の約7割が森林なのに木材自給率が2割という事実を知る人はとても少ない。

こうした森林や林業の問題を、未来を担う子どもたちに自分たちの問題として考えてもらおうと、学習支援活動に取り組む動きが活発になってきた。日本木材青壮年団体連合会（略称・木青連）、吉田勝晃会長）では、これまでにも副教材『森からの手紙』の作成や木工コンクールの開催など、子どもたちが森や木に親しむ活動を展開してきたが、今後はさらに学校への訪問授業をすすめていこうとしている。すでに取り組みを行う愛知の「トヨハシ・ランバーメン・クラブ」では、地元の森づくりNPOや行政と連携して、水源の森への植林活動と学校への訪問授業をセットにして、市内16の小学校で5年生を対象に展開。初めての植林作業も、森の土や木材を使った社会人先生による授業も、子どもたちにとても好評。先生たちにも、教科書で学ぶことを実地に体験し、現場の人の話を聞くことが学習の理解度を高め、総合的な学習に展開しやすいと大変喜ばれている。

木青連では、こうした訪問授業をサポートするため、（社）農山漁村文化協会と協力して、ビデオ『元気な森を育てるために』（定価一〇、五〇〇円）を制作した。ビデオでは、森林の役割や木のある暮らしの豊かさ、森を育てる林業の営みについてやさしく解説し、元気な森を育てるために何ができるのかを問いかける。森林体験学習への支援をすすめる林野庁にも監修してもらい、林業・木材関係者が訪問授業や学校の先生向けの研修などを行う際に、とても使いやすい内容に仕上がっている。

農文協

自然と人間を結ぶ―農文協の絵本シリーズ

食
かこさとしの
たべものえほん
全10巻　A4変形判　構成・文・かこさとし　揃価2100円／いろんな「味」に出会って、子どもたちは豊かに育っていく。食べものができるまでや歴史、食文化まで、素材別に楽しく学べるユニークな絵本。●幼保・小学校低学年から
①お米②パン③めん類④スープ⑤にく⑥さかな⑦加工食品⑧やさい⑨くだもの⑩おかし

地域
ふるさとを見直す絵本
全10巻　B5判　みなみ信州農業協同組合編・肥後耕寿・熊谷元一絵、揃価15000円／助け合いながら暮らした人々の生活。懐かしい農村の風物を素朴なタッチで描き、「ゆい」の心、むらの歴史を伝える絵本。●小学校低学年から

自然
きみのからだが地球環境
全5巻　小原秀雄編、下谷二助・絵、揃価10500円／太陽の光をあび、空気を吸い、食べ物を体に取り入れる動物としてのヒト。文化、社会をもち自然をつくり変える人間。その二重性から、ヒト―地域―地球のつながりの実体を、人体を起点としてとらえるユニークな絵本。●小学校低学年から

からだ
きみのからだが進化論
全5巻　AB判　図・文・黒田弘行、下谷二助・絵　揃価10500円／アゴ、歯、手足…ヒトの体に刻まれた生物進化36億年の歴史を細密な図とユーモラスなイラストの組合わせで描く。自然の一員としての自分を体で感じる絵本。●小学校低学年から

こころ
かこさとしの
からだとこころのえほん
全10巻　A4変形判　文・かこさとし　揃価2100円／なぜ人間は歩いたり話したりできるの？なぜ嬉しくなったり、悲しくなったりするの……こんな子どもの素朴な疑問や悩みをとおして、もっと身近な存在である自分自身のからだとこころを、子どもの目の高さで見つめる絵本。●小学校低学年から

あそび
校庭の自然とあそぼう
全10巻　AB判　各36頁　揃価16800円　都会の学校でも、校庭には「自然」への入り口がいっぱい。サクラの木、松の木、花壇、学校園、そして様々な雑草や虫たち。そんな自然と楽しく遊んでふれあう方法をまとめたシリーズ。●小学校低学年から

ご注文は　農文協（社団法人 農山漁村文化協会）〒107-8668　東京都港区赤坂7-6-1　TEL.03-3585-1141　FAX.03-3589-1387　振替00120-3-144478　URL http://www.ruralnet.or.jp/　（価格は税込）

http://www.maff.go.jp/kyoshitsu/index.html

ホームページには総合的な学習のヒントがいっぱい！

農林水産省のホームページ「子どものための農業教室」など

官公庁のサイトで最高の評価

農林水産省のホームページ「子どものための農業教室」（左）は小中学生向けに、農業についてさまざまな情報を提供するサイトだ。

農文協がコンテンツ制作に協力しているこのサイトは開設以来、学校関係者、そして子どもたちからも授業に役立つページと支持され、「法則化福岡」（http://www2u.biglobe.ne.jp/~toss/main.htm）でつくる「5年社会科の学習に役立つリンク集―食糧生産」では最高の★★★★★（五つ星：そのまま使って授業できる）の評価を得ている。

また、月刊「ネットランナー」二〇〇一年九月号（ソフトバンクパブリッシング（株）発行）では、四つの官公庁の子ども向けサイトを評価する中で、総合三〇〇点という最高得点がつけられ、「訪れる子どもたちへの思いは、今回のレビューサイトの中で最も大きく伝わってきた」「非常にわかりやすく、子どもの知的欲求を刺激するサイトになっている正統派サイトといえる」と非常に高く評価されている。

その話題のページが、この四月にリニューアルされた。

農産物の流通がわかる「食卓に届くまで」では、おせち料理に、みそ汁、カレーライスが加わった。その材料になるダイズ、みそ、とうふ、ワカメ、ニンジン、タマネギ、豚肉、リンゴの収穫から加工・販売されるまでの様子を写真で紹介している。また、ダイズの加工の多様さがわかる「ダイズ七変化」やカレーが日本に伝わってきた経緯がわかる「カレーライスはどこから来たの？」などのページ（右上）は、食品の加工、食文化にまで関心が向くようにつくられている。

「カレーライスは…」を深めることで、カレーの伝わってきた頃の明治時代のようす、その背景にある当時の世界情勢まで学ぶことにつながる。紹介されている昭和初期の日本のカレーライスには、タコやほっき貝が使われていたり、と具のちがいから地域の風土、食文化のちがいが見えてくる。これは、別の料理、例えばラーメンや天ぷらを取り上げても同じように深めていくことができるはずだ。

野菜や果物などの農産物の原産地、そこから日本に伝わってくるまでを紹介するのが「農産物のふるさと」。「農産物についての故事・ことわざ」では昔から使われている言葉が今の生活にも生きていることがわかる。もちろん、スタンダードに育て方や品種を紹介する「農産物たんけん隊」もあり、農業を素材にさまざまなページが展開されている。

もちろん、このサイトだけで農業についてのすべてがわかるわけではない。それを補足する形で「参考になるホームページの紹介」のコーナーでは、「イネ・コメ・田んぼ」「野菜・くだもの」「作物」「家畜」「雑草・病害虫」「森・林・山・木」などの一五の分野にわけて、もっと知りたい、調べたいという子どもたちの要望に答えるホームページを紹介している。

地域に根ざした食農教育サイト

おもしろいのは、地方の統計情報事務所や食料事務所のページ。食農教育の高まりに答えるべく、事務所の職員が実際にバケツでイネを栽培したり、カイコを飼ったりと、自らの体験をホームページで公開している。同じバケツイネづくりでも、東北と九州では栽培暦もちがう、品種もちがう。そのちがいは、こうした地方の事務所だから紹介できることである。

例えば沖縄県食糧事務所では、沖縄県の稲作発祥の言い伝え、沖縄県のコメの生産量や品種、コメを使った料理、例えば、「クファジューシー」という沖縄独特の炊き込みごはんを紹介したり、と地域特有の情報が満載だ。子どもたちにとっての身近な情報を得るためにもっと地方の統計情報事務所、食糧事務所のページを有効に使いたい。

まずは、「子どものための農業教室」を食農教育に取り組む入口に、興味関心を広げていくきっかけに活用してはいかがであろう。案外、総合的な学習の展開のヒントが隠されているかもしれない。

※ホームページのコンテンツ作成については農文協マルチメディア部まで。

これは使えるぞ！雑誌『食農教育』

活動を成功に導く専門知識を満載

秋田県西目町立西目小学校　佐々木彰

いよいよ今年度から総合的な学習の時間（以下「総合的な学習」）が完全実施される。各校の創意工夫を生かし自由な発想で行なうということで、具体的な内容は示されていないのだが、教師が授業の構想を立てる際に役立つよう多くの参考書籍が発行されている。しかし、なかなか自分の学校での指導にぴったりくるものは見つけられないでいた。

ところが、「これは使えるぞ！」という本を見つけた。農文協発行の『食農教育』誌である。タイトルも表紙もかなり地味なのだが、ページを開いてみるとびっくりする。印刷はやはり白黒で地味だが、中身は実に面白い。少々古い号の例になるが、〇楽しい炭焼き教室「木酢液の採取法」〇古代米・土器野焼き・かまど炊飯から「弥生人の食生活調べ」へ〇忍者道具をつくる〇鶏を解体する等々。どれも、「これならやってみたい」と思うような面白い活動である。しかも、分かりやすい図解入りで、初めて挑戦する場合でもうまく行きそうだ。

『食農教育』のタイトルどおり、生物を育てたり、食べたりする活動についての記事が多い。総合的な学習でこれらに取り組む例も多いが、教師が作った活動計画は概念的なものになりがちで、「子どもの何を育てるか」は明確だが、「具体的にどんな活動をするか」がはっきりしないこともある。『食農教育』は、一応、教育現場での実践を考えてはいるのだが、基本的に農業・林業・水産業の専門的な知識をベースにしているので、子どもたちを活動させるうえで役に立つものが多い。

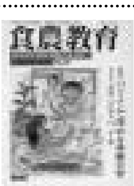
総合的な学習では教師が教育的配慮のもとに計画を立てるのだが、これまでにやったことのない活動をやることがほとんどで、教師に全く知識のない状態で取り組まなくてはならないこともある。試行錯誤しながらやってみるというのも価値があるが、約一年をかけて行なう学習活動が、基本的な知識不足のために結果が失敗に終わるというのではしょうがない。それは教師側の計画ミスである。

子どもの活動を成功させるための、方法や技能等に関する知識を得るためには、行なう活動についての専門家が書いた書籍が役に立つ。教科学習の指導以外にはあまり知識がない私たち教師が、生半可な知識で活動に取り組んでも成功の確率は低い。きちんとした知識を入手するためには、きちんとした参考書籍を読まなければいけないと思う。この『食農教育』は、そういう点で、実に役立つ知識が満載である。

総合的な学習の指導計画を立てるには、細かい知識だけでなく、教育としての広い視野が必要だという考え方もあるだろう。しかし、広い視野だけで、きちんとした知識がないのでは、どうしようもない。具体的な活動を先に設定して、それに教育的な意味を裏付けしていくという方法もあるだろう。総合的な学習の場合は、むしろそういったアプローチのほうがよいようにも思える。

もちろん知識や技能だけの本ではなく、教師の実践記録や文部科学省視学官の方の文章なども『食農教育』ならではの本物感があるものが多く、この本一冊で総合的な学習がわかると言っても過言ではないと思う。

『食農教育』2002年5月号より



隔月刊「食農教育」

A5判・一六〇頁・定価800円・年間4800円／先進的授業実践例、教材のヒント満載

農文協　**地域に根ざし、世界に広がる**　農文協の全集

講座 食の文化

作る・食べる・売る・楽しむ―「日常茶飯事」の文化をあらゆる角度から解剖。人間の食の豊かさ、多様さを、様々な角度からの学術的研究で明らかにする。

全7巻〈監修〉石毛直道
●各6800円、揃47600円
①人類の食文化　吉田集而編
②日本の食事文化　熊倉功夫編
③調理とたべもの　杉田浩一編
④家庭の食事空間　山口昌伴編
⑤食の情報化　井上忠司編
⑥食の思想と行動　豊川裕之編
⑦食のゆくえ　田村眞八郎、井上如編

江戸時代 人づくり風土記

全50巻　都道府県別編集
江戸時代は総合的な学習の素材の宝庫
自然と人間が活発に交流することで、地域が独自の産業・生活・文化を作り上げた江戸時代。その営みを、産業、政治、教育、福祉、民俗、工芸美術まで多様な分野ごとに発掘。それぞれのテーマごとに全国縦断的な調べ学習が展開できる総合的学習の郷土史全集。
B5判・上製〈監修〉大石慎三郎・他〈各道府県版〉3500円～4500円、大阪版10000円〈CD付〉東京版「大江戸万華鏡」10000円、沖縄版7000円

CD-ROM **日本の食生活全集**

全集50巻の全データを収録。収録写真オールカラー1500点。パソコンならではの多彩な検索機能で、全国雑煮調べ、寿司調べなど迅速にできる。●120000円

日本の食生活全集

全50巻　都道府県別編集　A5判上製　●各2900円／揃価145000円
その地の自然と暮らしの積み重ねに育まれた〈食事〉のありよう。いま失われつつあるその本来の姿を、各地の古老からの地道な「聞き書」と再現写真で記録した壮大な食の民俗誌。
●日本の食の原形を記録…大正末期から昭和初期まで、戦争による混乱、戦後の洋風化を経る以前の食生活を記録。
●四季折々、朝昼晩の献立、晴れ食、行事食、薬効のある食べ物、救荒食まで記録。

ご注文は　農文協（社団法人 農山漁村文化協会）〒107-8668　東京都港区赤坂7-6-1　TEL.03-3585-1141　FAX.03-3589-1387　振替00120-3-144478　URL http://www.ruralnet.or.jp/　価格は税込

元気に翔びだせ学校図書館！　みんなが主役の教育創造

NCLの会

〈事務局〉農文協

今、子どもたちや先生方に求められている図書資料をお届けする
学校巡回のための出版社グループ　http://www.ruralnet.or.jp/~NCL

総合的な学習でますます活発になる子どもたちの調べ学習。「学習センター」「情報センター」としての学校図書館の充実がいま切実に求められています。「ＮＣＬの会」は学校図書館のさらなる充実を願う出版社29社で構成する学校図書館巡回販売グループ。ご希望の学校には、講談社、小学館、農文協など参加各社の見本をお持ちして展示いたしますので、直接現物を見ながら選書することができます。

2002年　NCLオリジナル選書より

読書好きを育むセット

［全8巻］揃本体21560円

子どもは本来本好きです。押し付けや強制でなく、読書を好きにする「読書のアニマシオン」の提案／子どもの本の歴史（岩崎書店）読書へのアニマシオン 75の作戦（柏書房）ぼくらは物語探偵団（柏書房）アニマシオンが子どもを育てる（旬報社）やってみよう読書のアニマシオン（全国学校図書館協議会）よい絵本・21回（全国学校図書館協議会）『おやすみなさい おつきさま』ができるまで（評論社）インターネット探検隊（ほるぷ出版）

第48回青少年読書感想文全国コンクール

課題図書
小学校５・６年の部

カブトエビの寒い夏

農文協刊、谷本雄治・文、岡本順・絵
五年生の耕平はクラスの生き物博士。ある日、農薬を減らすに農薬をしている父の田んぼで古代生物カブトエビと出会うが、大冷害で米不足が起こり……。自然と農業と人間の関係を子どもの視点で問う。　●1400円（税込）

森をそだてる・地球を守るセット

［全10巻］　揃本体15859円

「木」から出発して「総合」へとつなげる多彩な本のセット。「森」の字のように助けあって生きる環境への願いをこめて／木を植えた男（あすなろ書房）におい山脈（あすなろ書房）森からの手紙（旬報社）森の大者イヌワシ物語（汐文社）都市の昆虫・田畑の昆虫（農文協）微生物が森を育てる（農文協）森のおいたち（農文協）オーガニックな生活（星の環会）オーガニックなはなし（星の環会）木のうた（ほるぷ出版）

〈NCL会員社〉岩崎書店、講談社、さ・え・ら書房、旬報社、小学館、汐文社、農文協、PHP研究所、評論社、ほるぷ出版〈スポット参加社〉朝日新聞社、あすなろ書房、いかだ社、柏書房、河出書房新社、紀伊國屋書店、金の星社、合同出版、自由国民社、全国学校図書館協議会、徳間書店、晩成書房、文溪堂、ベースボール・マガジン社、星の環会、丸善、メディアパル、立風書房、理論社

先着100名様にプレゼント

学校図書館ブックガイド

2002年NCL図書目録

●Ａ4判、212ページ、頒価840円

総合的な学習、調べ学習、絵本、児童書、指導書、パソコンソフト、ビデオ…参加29社の688アイテム（セット）を収録。単なる新刊案内ではなく、「総合」のテーマ別ガイドなど、現場のニーズに合わせた「使える」コーナーづくりが好評。

● 今回、「出版ダイジェスト」読者の皆様にプレゼント（先着100名様）。学校名（図書館名）、ご担当者名を明記の上、葉書かＦＡＸでお申込みください。

「総合的な学習」「食農教育」の情報拠点

NCL児童書センター

〒100－0004
東京都千代田区大手町1―8―3ＪＡビル地下1階
TEL 03(3245)7647　FAX 03(3270)2800

全国学校図書館のための常設展示場

★「ＮＣＬ図書目録」収録の図書など約6000点を常設展示。現物を手にとって選書できる通年展示センター。
★ 全国どこの書店を通じても納品可能。「装備」も実費で提供。

「食農教育」の関連出版情報や教材情報も提供

★ 各種団体や行政などが発行した各種出版物（一般に流通しないものも含む）や栽培・飼育教材キットの収集・展示・斡旋販売。
★ 併設の「農業書センター」には、食と農の総合的学習に役立つ農林水産業関連図書が日本一の在庫。

学校への直接納品も承ります

★ 僻地校などで近くに書店がない場合、当センターから直接発送いたします。
★ ＮＣＬの会のホームページ
http://www.ruralnet.or.jp/~NCL/から図書の検索、注文もできます。

農文協

●食と農の4大データベース搭載！〈ルーラル電子図書館〉会員募集中！：http://lib.ruralnet.or.jp/

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1
TEL.03-3585-1141
FAX.03-3589-1387

ご注文は　田舎の本屋さん　FAX 03(3589)1387　TEL 03(3585)1141
書店、図書館の不便な地域に本を届ける通販サービス。送料1回につき何冊でも400円。会員になれば送料無料（年会費2100円）　●入会案内進呈　ご請求は下記農文協「DG④田舎」係

（価格は2002年4月現在）